

特別な支援を必要とする生徒の美術指導の実践報告

藤 井 智 行

A practice report of art education for students
with special support.

by
Tomoyuki Fujii

1. はじめに

山口県では平成20年度から「視覚・聴覚・知的・肢体・病弱」の5障害に対応した総合支援学校が始まった。本稿では視覚障害と聴覚障害を除いた知的、肢体、病弱の生徒への美術指導法を、総合支援学校高等部の実践結果を踏まえて報告する。

総合支援学校では障害種によって様々なクラス編成が行われる。まず大枠で知的障害を伴わない生徒と知的障害のある児童生徒に分けられる。それぞれ障害種が単一であるか重複であるかによって、さらにクラスが分けられていく。本稿では知的単一と知的重複をまとめて1つの授業活動集団とし、知的配慮のある授業を行った。さらに病弱や肢体不自由単一障害の生徒は、一般高等学校の教育課程に準じた学習内容の授業を行った。特別な支援を必要とする生徒は、今まで過ごしてきた環境や学習経験の違いにより、実態は様々であった。授業を実践した結果や考え方を踏まえて、特別な支援を必要とする生徒の美術指導を紹介していく。

2. 実態把握

美術指導を行うにあたって、実態把握をしていくことが大切である。支援方法や手立てを考えていくために、生徒がどのくらいの理解度があるか、どのような環境で生活、学習してきたのかを知る必要がある。この実態把握を「技能に関する実態把握」「色に関する実態把握」「感性に関する実態把握」の3つの項目に分けて行った。

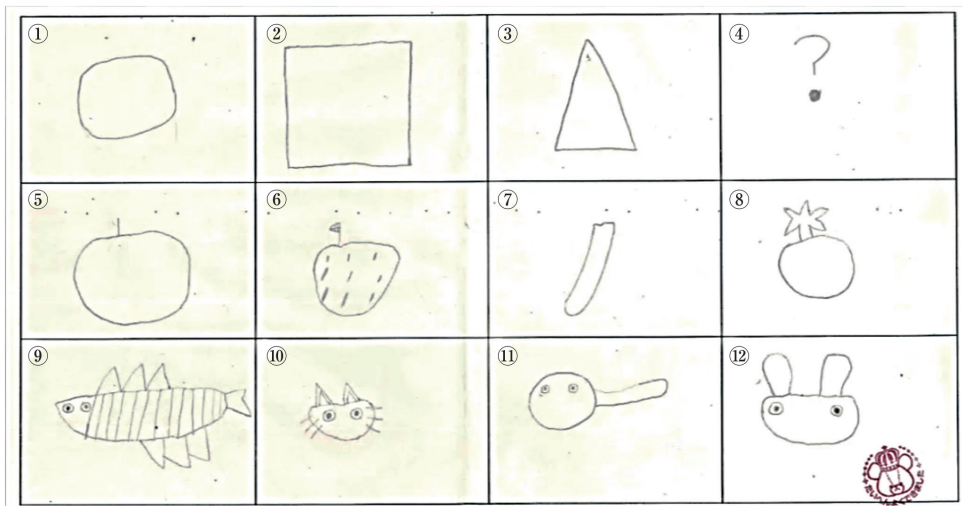
2.1 技能に関する実態把握

技能に関する実態把握は学習ワークシート（資料1）の形で行った。12個に区切ったマス

シートに書き、そのマスの中に指定した絵を描かせた。指定した物の見本（図鑑や画像など）は提示せず行っている。また生徒には①線を1本1本きれいに描く。②しゃべらず描く。③時間いっぱい一生懸命描く。この3つを約束として指示した。

1番から4番までは、簡単な図形（丸・三角・四角など）を設定し、どのような線を描くかを確認した。5番から8番までは、身近な野菜や果物を設定し、形に対してどこまで意識して接しているかを確認した。9番から12番は生き物を設定し、課題に対してどのような表現をするかを確認した。また、この活動中の生徒の様子も観察した。描き方、時間、態度など、制作活動に関わることを一人ひとり記録した。

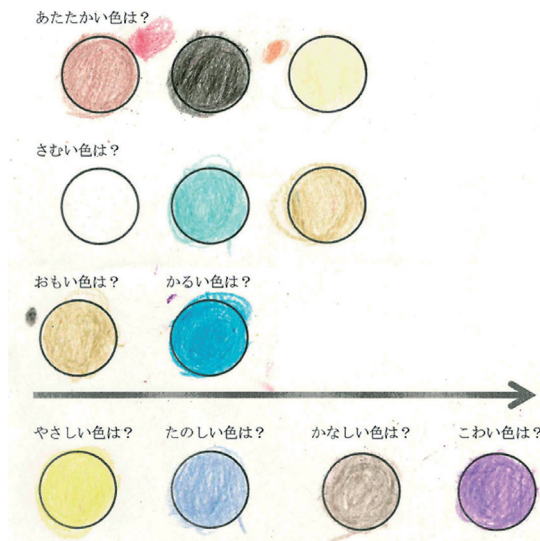
（資料1）技能に関する実態把握



2. 2 色に関する実態把握

色に関しては障害の幅によって様々な捉え方がある。例えば「暖かい色は何ですか」という質問に対して、一般的に赤やオレンジといった暖色系の色を選択する。しかし特別な支援を必要とする生徒は、このような答えとは限らない。また「優しい、怖い」などの感情を色に例えることの苦手な生徒が多い。色に対する知識や感性を把握するために、学習ワークシート（資料2）を作成し、生徒に色を塗らせた。

（資料2）色に関する実態把握



2. 3 感性に関する実態把握

生徒によって視覚から入る情報は様々な感情を生む。この感情には個人差がある。幼少期から現在まで、どのような経験を積み、そのときどのような声掛けを受けたかにより、ものを捉える感性は大きく違ってくる。また障害により、感情の一部分が欠損している生徒や、気持ちを相手に伝えることが困難な生徒もいる。この実態把握ではPCを利用し、生徒に様々な画像を見せた。その画像を見せて、どのような気持ちになったかを語群から選ばせ、理由とともに学習ワークシート（資料3）に書かせた。また理由を書くことが困難な生徒は、空欄のままでもよいと指示している。

（資料3）感性に関する実態把握

いろいろな気持ち

かわいい	おもしろい	たのしい	かつこいい	かなしい
こわい	きたない	うつくしい	さびしい	

なまえ	気持ち	理由
木々	おもしろい	桜の花の下がちょっと薄い緑があるから。
マチュピチュ	こわい	芝生に行く時、峡谷みたいに怖いから。
チャウチャウ	かなしい	ワココが目をつぶって小布すぎるので悲しい。
工場夜景	かつこいい	工場の中にライトが全部ついてる光がある。
雲と月	さびしい	大きな月の近くに雲が写っているから。
すずめと蜂	きたない	蜂の毛の方が小布くて目が軍隊に似て小布すぎる。
アマゾン	うつくしい	梅光学院の建物の色が同じ色ではない。
シリア	かわいい	外国人が三人あったその子供が立ってここにしているから。
モンドリアン	たのしい	色がきたない感じではないから。
スマイル	うれしい	眼鏡の男が楽しい。

（写真1）桜並木の画像



（写真2）チャウチャウの画像



3. 教員との連携

美術の授業を行うにあたって、教員間の連携が不可欠である。生徒全員の個別の教育支援計画（資料4）を開き見ることで、障害種はもちろん、多動、対人恐怖、緘黙、パニック障害、感覚過敏などの特性を知り、さらに各担任から一人ひとりの実態や課題を事前に詳しく入手しておくことも必要であろう。これらの情報と美術としての実態把握を照らし合わせて、個別の指導計画（資料5）を作成していった。また生徒の指導や声掛けの手掛かりとして、趣味や好

きなものを把握しておくことも必要である。

授業はT.T.（ティーム・ティーチング）で行った。T.T.で重要なのはすべての生徒の個別の指導計画の目標や手立て、合理的配慮等の生徒情報を共有し、密に連携しながら生徒の支援にあたることだ。教員配置の基本を決め、緊急時（パニック、部屋から飛び出す、癲癇など）用のマニュアルを作ることで、教員間の共通理解を深めた。

4. 環境整備と道具選び

支援を必要とする生徒の中には、皆と同じ環境で授業を受けることが困難な生徒もいる。学ぶ環境が整っていないと、美術そのものを嫌いになってしまうこともある。そのようなことがないように、実態に応じて様々な配慮を行っている。興奮し、奇声をあげる生徒や友達の商品を壊す生徒に対しては、別室でクールダウンをし、その部屋で授業を行った。刺激に対して過剰に反応し、活動に集中できない生徒に対しては、美術教室にセパレーションを施し、視覚的刺戟を遮断した。また座席の配置も重要であると考え。下半身不随の車椅子生徒には移動するのに十分なスペースを作っておき、主体的に活動しやすくしておく。環境整備と同様、道具選びが大切である。安心して創造活動ができる道具は、生徒の意欲や表現に大きく影響していくため、生徒一人ひとりの実態に応じて個別に対応していく。触覚過敏で素手で素材を触れない生徒は、ビニールやゴムなどの手袋を用意し、嗅覚過敏の生徒には、無臭な塗料や接着剤を用意した。麻痺のある生徒は、その麻痺の状態によって道具を替えていく。生徒の筆を動かす可動域から筆の長さ、太さを生徒と話し合いながら調節していく。

（資料4）個別の教育支援計画より参照

平成28年5月

	病状	生徒の実態把握と個別目標（学級担任）
生徒A	<ul style="list-style-type: none"> 自閉症スペクトラム障害 アトピー性皮膚炎 気管支喘息 	(実態) ・生活面や勉強面において母親の支援が必要で、身辺自立も不十分である。 ・他人の行動に対しては指摘できるが、自己理解はできていない。 (目標) ・見通しを持ち、自己管理ができるようになる。
生徒B	<ul style="list-style-type: none"> 適応障害 社会不安障害 ADHD LD 	(実態) ・人に言われてから行動する傾向がある。 ・人の目を気にし、自己主張ができない。 (目標) ・何事にもチャレンジ精神を持って取り組めるようになる。 ・臨機応変に対応できる順応性を持ちながら、意志表示ができるようになる。
生徒C	<ul style="list-style-type: none"> 広汎性発達障害 心身症 	(実態) ・睡眠の状態が悪いようで、毎身体調不良を訴える。 (目標) ・病状を理解し、見通しを持って生活ができるようになる。
生徒D	<ul style="list-style-type: none"> 適応障害 	(実態) ・自分ではできていると思いつつも、自己理解ができていない。 ・人間関係作りが難しく、常にストレートに物事を言ってしまう。 (目標) ・実体験を増やし、自己評価をする前に、他人の評価を参考に自分を振り返ることができる。 ・心を安定させ、相手の気持ちを考えながら行動することができるようになる。
生徒E	<ul style="list-style-type: none"> 高機能自閉症 適応障害 高度肥満症 	(実態) ・生活、運動、進路などの現状を受け入れていない。 ・短期記憶が悪く、学校生活に支障をきたしている。 (目標) ・自立に向けて自己を見つめ直し、生活習慣を改善していこうという気持ちを育てる。
生徒F	<ul style="list-style-type: none"> 脳性麻痺 脊柱側湾症 気管支喘息 	(実態) ・困っていても、相談や依頼ができない。 ・先の見通しが立てられず、計画性がない。 ・人気が薄いと見え、謙虚さにかける。 (目標) ・障害理解を深め、将来に向けて柔軟な心を育てる。

(資料5) 個別の指導計画より美術科を抜粋

平成28年6月

	生徒の実態把握(美術科)	個別の年間指導目標(美術科)
生徒A	・美術に対して意欲や関心が高く、対象物の特徴をとらえて絵や立体で表すことができる。 ・美術作品などのよさや美しさを独自の視点で味わうことができる。	・ものの見方や表現のし方を学び、場や意図に合わせた作品制作や鑑賞ができるようになる。 ・他者の美的価値観を尊重しながら、作品について批評し合う。
生徒B	・美術に対して意欲や関心が高く、対象物を平面的に表現することができる。 ・感じ取ったことや考えたことを、自分の作品に取り入れたい、構想することが苦手である。	・色々な表現技法を学び、表したいことと関連付けて、表現方法を自分で選択できるようになる。 ・他者の美的価値観を尊重しながら、作品について批評し合う。
生徒C	・体調不良により授業に参加できないことが多い。 ・美術の創造活動に対し、苦手意識がある。 ・作品から他者の思いを感じ取ることが苦手である。	・「楽しみ」や「夢中になる」などの感情や自主性を養えるようになる。 ・色々な表現方法を学び、自分の作品に合った表現方法を見つけさせるようになる。 ・他者の美的価値観を尊重しながら、作品について批評し合う。
生徒D	・美術に対して意欲や関心が高い。 ・対象物を立体的に捉えることが苦手である。 ・自分の表現や思いに自信がないように見える。	・充実感や成就感を味わうために、美術の基礎技能を高める。 ・対象物から受けるイメージを大切に持ち、自分の表現に取り入れることができるようになる。 ・他者の美的価値観を尊重しながら、作品について批評し合う。
生徒E	・美術に対して意欲や関心が高い。 ・自分の作品に対し、達成感や満足感が高い。 ・美意識が低く、多視点からものを考えられない。	・美術の基礎技能を高め、作品の質を高める。 ・感性や想像力を働かせて、作品のよさや美しさを味わえるようになる。 ・他者の美的価値観を尊重しながら、作品について批評し合う。
生徒F	・対象物の形を理解することはできるが、平面や立体で表現することは難しい。 ・色や形に対して興味が高く、自分の価値観を生かしながら対象物を鑑賞することができる。	・自分の目と心で深く観察し、それぞれの形や色彩の特徴をとらえ、自分の表現に生かす。 ・美的な感性や理解力を育むため、多視点で対象物を捉えることができるようになる。 ・他者の美的価値観を尊重しながら、作品について批評し合う。

5. 美術指導

ものの美しさを感じ取る感性を高めること。自己のものの見方や感じ方に基づいて表現する力を身に付けること。この2つの目標を前提に置き、特別な支援を必要とする生徒に指導してきた。全体的に視覚支援が有効だと考え、PCやタブレットなどのICT機器を使い授業を行った。話し方や指示の出し方には特に配慮した。知的障害のある生徒は、長い話を聞くと要点がわからなくなることがある。できるだけ分かりやすい言葉を使い、簡潔な指示を1つ1つ提示した。また授業始めに4つのルール決めた。①作品やプリントを大切にすること。②作品を一生懸命作る。③みんなで助け合う。④話をよく聞く。生徒がこの4つのルールを守っていくことで、良い雰囲気の中でみんなと授業を学ぶ楽しさを感じさせることができた。生徒は互いに刺激を受け、自分の作品をより良いものにしたいという意欲が育まれていった。これらを授業基盤とした上で、美術指導を平面作品と立体作品に分けていくつか紹介していく。

5. 1. 1 平面作品の制作の流れ

感情を伝える人物画では、描く対象人物を自分で決められるようにした。対象が決まるとPCを使って表情についての学習を行った。表情を変えた写真をテレビに映し、その写真は喜・怒・哀のどの感情かを考えさせた。その後、表情を意識した写真を撮影した。撮影した写真は、四つ切り画用紙サイズにプリントアウトした。グリッド法を使い、画用紙に人物の下絵を描かせた。下絵を終えたら、表情に合った背景を入れた。アクリル、ポスターカラー、水彩の中から好きな絵具を選び彩色させた。色々な絵具を重ねて塗りたい生徒には、絵具の特徴を説明し、自由に絵具を組み合わせるよう指導した。

5. 1. 2 人物画の指導ポイント

人物画のポイントは5つある。1つ目は対象を自分で選択できることだ。自画像を設定すると、自分の顔にコンプレックスがある生徒は、描くことに不安を感じてしまうことがある。適応障害や心身症のある生徒はこの傾向が強い。しかし先生や家族の顔に変更すれば、安心して人物画に向き合えることが、何人かの生徒を指導した中でわかった。2つ目は表情の学びだ。実態把握でもあったように、生徒の感じ方は一律ではない。感性を豊かにするためにも、表情と感情の関連性を教えていく必要があった。3つ目は四つ切画用紙サイズに写真をプリントアウトすることだ。知的障害のある生徒は、ものの比率を変えると、対象を上手く認識できないことがある。見本となるものが作品のサイズと同じであれば描きやすくなる。4つ目はグリッド法を使って描くことだ。全体を把握しながら絵を描くのは難しく、苦手意識を強め学習意欲の低下につながる。グリッド法は分割して描くことができるので、部分部分を確認しながら描ける。5つ目は画材を自由に選択できることだ。色を厚く重ね塗りしたい生徒はアクリル絵の具で彩色し、薄く柔らかに塗りたくりたい生徒には水彩絵の具で彩色した。また一定の場面を同じ色で塗り分けたい生徒には、ポスターカラーを選択肢の1つとして提案した。このように、個人の表現を尊重するために、自分はどのような表現で表したいかを相談しながら描かせた。

5. 1. 3 平面作品紹介(1)(写真3)

この作品を描いた生徒は重複障害(知的障害、肢体不自由)である。この生徒は車イスに乗っており、進行性の病気を患っている。姿勢の保持が難しく上肢が右に傾いているが、指先から手首までは自分で動かすことができるし、腕も少し持ち上げることができる。原色に近い色を好み、色の配色が個性的で面白く、創造活動を主体的に取り組める生徒である。身体的な配慮として、描きやすい方向に画用紙を動かすことや洗筆に水を入れることなどを支援した。

この作品は「ロボットにかこまれた自分」という題名の平面作品である。グリッド法で自画像を描き、頑張っている今を描いている。画材は自分の使いやすい物を選択し、アクリル絵の具、パステル、クレヨン、カラーペンで彩色した。顔や服などはアクリル絵の具で重ね塗り、陰影や頬の赤みはパステルで表した。また、この作品は顔と同様に背景にもこだわりを見せた。背景に描かれているロボットの顔は恐ろしく、無数の斑点とピンクという組み合わせ

写真(3)



平成30年度
山口県特別支援学校文化祭
教育長賞

は毒々しい。このロボットには思いが込められており、自分の体にいる悪い病気を表わしている。病気に負けない自分を表情や配色で強く印象付け、作者の思いや決意を強く感じさせてくれる。

5. 2. 1 想像画制作の流れ

音楽を聴き想像画を描かせた。音楽は曲調が違う7曲を聴かせ、その中から好きな曲を自由に選ばせた。選んだ曲を聴きながら、自由に線を引かせた。線の重なりや魅力的な部分を教員と相談しながら選び、抜き出していく。抜き出したものは、画用紙サイズに拡大し転写していく。彩色するにあたって、曲を聴いてどのように感じたかを考えさせた。感じた気持ちを色で表現し、線と線で区切られた形も感じた色で彩色した。具象物がイメージとして浮かぶ生徒は、具象物も一緒に描くように指示している。

5. 2. 2 想像画の指導ポイント

指導のポイントは3つある。1つ目は音楽を聴かせて画面を構成させたことだ。想像画でイメージを膨らませながら構想を練るのは、難しく感じる生徒が多い。1つの手段であったが聴いた音を自由な線で表すことで、形をとるのが苦手な生徒でも、楽しみながら授業に取り組める。2つ目は曲を聴いたときの気持ちを色で表したことだ。メロディーで色を決める生徒やテンポで色を決める生徒など、自分が思った色で好きなように彩色できるところが、生徒の想像力や独創性を生かすことにつながっている。3つ目は自由に具象物を書き込んでも良いということだ。曲名や歌詞、聴いたときの気持ちなどから自由にイメージしたことを書き込むことで、より生徒の感受性を高め、満足感や達成感を培っていくことにつながった。

5. 2. 3 平面作品紹介 (2) (写真4)

この作品を描いた生徒は重複障害（知的障害、病弱）である。絵を描くことが好きだが、こだわりが強く、ある特定の物や色に執着する。しかし自分が好きな内容であれば意欲的に授業に取り組むことができる。自分の思いが相手に伝わらないときは落ち着きがなく、自分の作品や画材を破ってしまうことがあるが、形の捉え方は面白いものを持っている。見通しがつかないと不安になることが多いので、1日の目標を教師と一緒に決め、描きたいものやアイ

写真 (4)



令和元年度
山口県特別支援学校文化祭
教育長賞

デアも教師と相談しながら決めていった。

この作品は「れもん」という題名の平面作品で、米津玄師の Lemon を聴いて描いている。リズムに合わせて体全体を動かし、自由に線を描いた。リズムや音程で線に強弱が付き、曲と線が一体化しているように感じる。またこの曲を悲しい曲と捉え、彩色をしている。線と線が交わったところを赤と緑で彩色し、色で感情を表現している。また悲しみを無数の点でも表現している。さらに、画面の中央に黄色いレモンを描くことで、悲しみから抜け出した後の甘酸っぱさを感じさせてくれる。

5. 3. 1 素材を組み合わせた立体制作の流れ

周南市出身でジャンクアートを手掛ける西尾司の作品を鑑賞した。立体造形することになれるため、洗濯バサミを繋ぎ合わせて様々な具象物を作らせた。造形になれたところで、素材になりそうなものを校舎内や海岸に集めに行った。それら素材を色々な角度から見つめ、自分の好きな様に組み合わせた。組み合わせが決まると針金や紐、接着剤などで固定していった。彩色はアクリル系の絵具やスプレーで塗った。

5. 3. 2 素材を組み合わせた立体制作の指導ポイント

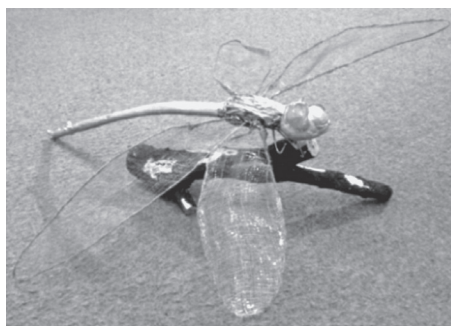
指導のポイントは4つある。1つ目は作品鑑賞をし、イメージを膨らませたところだ。特別な支援を必要とする生徒の中には、本やテレビ、美術館などで美術作品を鑑賞した経験が少ない生徒がいる。今から制作するものを視覚によって確認することで、制作活動に見通しが付き、意欲的な活動に取り組めた。2つ目は洗濯バサミを使って立体造形の練習をすることだ。立体造形は、好きな生徒と嫌いな生徒に極端に分かれることがある。嫌いな生徒の原因としては、空間認知の悪さがあげられる。できるだけ苦手意識を緩和させるために、具象物の見本を示しながら、生徒と一緒に立体造形の練習を行っていく。3つ目は素材を自分で探すことだ。木や石、破れたザル、ハンガー、一輪車のタイヤなど、自分がイメージした素材が見つかった喜びを感じるとともに、観察力と思考力を養うこともできると考えている。4つ目は自由に組み合わせることだ。生徒の発想力、想像力を育むためにも組み合わせを工夫させ、新しい発見の楽しみや喜びを感じさせていく。

5. 3. 3 立体作品紹介（写真5）

この作品を制作した生徒は病弱（心身症）である。気持ちを安定させることが難しく、授業参加が少なく計画的な指導ができなかった。しかし興味のあるものに対しては観察力が鋭く、じっくり制作をイメージすることができた。視覚優位なので、手順や手本を見せながら指導することで、安心して制作することができた。

この作品は「トンボ」という題名の立体作品である。海に打ち上げられた流木、茶漉し、網、ハンガーなどのゴミを集め、その中から素材として使えそうな物を選び組み合わせた。細部までトンボを観察し茶漉しで複眼、流木で胸と腹、針金と網で羽を表現した。また全体を銀色に着色したことで、素材に一体感が生まれ、新しい生命を感じさせてくれる。全長80cmの大きな作品だが、迫力と繊細さが上手く融合している。

写真(5)



平成27年度
第68回山口県学校美術展
推奨

5. 4. 1 共同制作の流れ

文化祭で展示する作品を学部全員で制作した。作りたい作品を生徒一人ひとりにアンケートをとり、作品のコンセプトを決めた。アンケート結果から、学校から見える風景を様々な素材で表現し、レリーフにしていくことになった。生徒と役割分担を決め、作画担当と表現担当に分かれた。作画担当グループは、海岸にスケッチにいき風景画を描いた。表現担当グループはPCやタブレットを使い、どのような表現方法があるか調べ、爪楊枝、ガラス、砂、糸、綿、貝を使って表現することに決めた。素材集めは生徒全員で協力して行った。スケッチした風景画はコンテを使い、スタイロフォームに下絵を書き込んだ。各表現ごとに少人数のグループを作り、その日の目標を決めながら制作した。

5. 4. 2 共同制作の指導ポイント

共同制作の指導ポイントは4つある。1つ目は一人ひとりの意見をアンケートにより把握することだ。適応障害や対人恐怖症などの生徒は集団で発言したり、活動したりすることが難しい。意見交換する手段としてアンケート形式にし、生徒たちの思いをまとめて伝えた。2つ目は役割分担をすることだ。役割の分担をすることで、各役割に責任感が生まれ、生徒がみんなのために主体的に活動できるようになった。3つ目は色々な表現を複合させることだ。生徒の「海がキラキラしている」「山はふわふわ」「砂浜の砂と貝を使いたい」という感性を尊重し、1つの作品にみんなの思いを詰め込めるようにした。4つ目は目標を決めて制作することだ。始めと終わりが見えなければ不安になり、活動に取り組めない生徒は多い。グループで話し合いをしながら、目標を決めることでグループに一体感が生まれた。楽しみ、苦しみを共有し合うことも、この活動の良さだと考える。

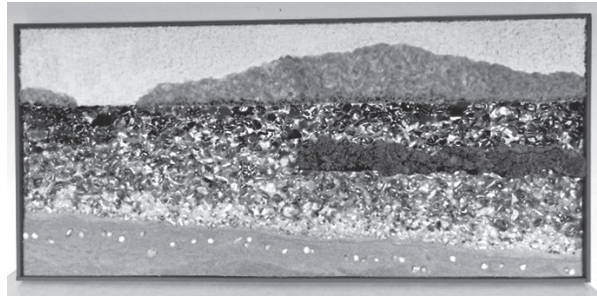
5. 4. 3 共同制作作品紹介（写真6）

この作品を制作した生徒たちは病弱（心身症、適応障害、社会不安障害など）である。気持ちが不安定な生徒たちの共同制作なので、適性を踏まえて役割分担を行った。同じ作業を繰り返すことが得意な生徒や新しいアイデアを提案する生徒。コツコツと細かい作業が続けられる生徒や大きなものを大胆に作っていくのが得意な生徒。一人ひとりの特性を見極めながら役割分担をし、パーツを作り続けた。各パーツを1つの形として組み上げたときには、生徒から自然と拍手がおこり、みんなで作る喜びを味わうことができた。

この作品は「故郷」という題名の半立体作品である。校舎から見える豊かな自然を、色々な素材を使い表現した。海の表現にはガラスを使った。青や緑や透明のガラス瓶を砕き、それを七宝窯で焼き、丸みのある柔らかい形に作り直し、キャンバスに張り付けた。ガラスを張り付ける前に工夫して金紙を貼ることで、

輝く海を表している。さらに山はコットン、テトラポットと陸地は爪楊枝、砂浜と空は色砂と糸で表現している。それぞれの素材と表現が重なり合い、お互いの良さを十分に引き出し合っている。この作品を見ると、生徒たちの郷土愛が伝わってくるように感じる。

写真（6）



平成 27 年度
第 21 回山口県障害者芸術文化祭
山口県知事賞

6. 指導案

平成 28 年 4 月より合理的配慮が施行され、個別の教育支援計画のみならず指導案にも合理的配慮を記入するようになった。合理的配慮とは「障害者が他の者と平等にすべての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう」（障害者の権利に関する条約第 2 条より抜粋）と定義されている。ここでは合理的配慮を記載した美術科指導案（資料 6）を紹介する。以下の指導案や学習ワークシート（資料 7）は知的障害を伴わない病弱と肢体不自由の合同クラスの授業で使用したものである。またこの合同クラスは資料 4・5 に表記された生徒である。

授業を行った結果、心身症や適応障害の生徒における鑑賞の授業と配慮の難しさが課題として残った。自己表現と作品を通した他者理解をねらいにしたが、今回の題材と指導方法が生徒

にとって最もわかりやすい授業になったのかを、見つめ直す必要があると感じた。病弱で精神面の障害を持っている生徒はこだわりを強く持ち、他者の意見を受け入れにくい場合がある。また自分の考え方に自信がなく、不安に思うことで授業に参加できない生徒もいる。この研究授業では6名全員が参加したが、授業への不安から常に下を向き厳しい顔をしている生徒がいた。事前に授業内容を予告するなどの配慮が万全ではなく、授業への見通しを持たせることができなかったことは、大きな反省点である。その他に、自分の意見を相手と交換することが難しい場面があった。ゴッホの自画像を今までに鑑賞したことのある生徒は、自信を持って意見を発表した。コミュニケーションを苦手とする生徒には難しいようだった。意見交換をするための発表のスタイルはプリントに記載していたが、発表するということに慣れていないことや雰囲気がいつもと違うことから、発表できない生徒もいた。このことから生徒同士の意見交換のやり方を考え直し、お互いが安心できるような環境を整えた上で、授業づくりをしなければならない。この授業では環境が変わるというマイナス面もあったので、生徒同士の意見交換は次回にし、ゆっくりと授業を進めた方が良かった。またプリントに書いた自分の意見をPCで表にし、言語による発表ができない場合の配慮を行うべきであった。自己評価もいつもより低い項目（相手の意見を尊重し、積極的に話し合いに参加する）があり、少しずつ積み上げてきた自己肯定感を下げるようになったかもしれない。

現在学校における合理的配慮は3観点11項目（資料8）で示されている。


（資料6）

高等部2年4・5組 美術1学習指導案 指導者 藤井智行																					
1 日時 平成28年1月27日(水) 4校時(11:35~12:25) 2 対象 高等部2年 男子3名(病弱)女子3名(病弱2名、肢体不自由1名) 3 場所 多目的教室 4 本時案 (1) 単元名(題材名) 後期印象派の絵画表現について(表現主義) (2) 本時の計画 ① わらい ・美術作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫を、感じ取るようになる。(鑑賞の能力) ・形や色彩効果を生かし、伝えたい内容をどのように表現するか考えられるようになる。(発想や構想の能力) ② 個別の教育支援計画と合理的配慮の結び付き ・自分の障害を把握し、スムーズな活動ができるようになる。 <(1)-1-3 教育内容><(1)-3-3、5、7 心理面> ・自分の気持ちや考え方を他者に伝える場を設定し、よりよい人間関係を構築する。 <(1)-3-4 心理面> ・自分の体調を知り、管理や調整ができるようになる。 <(1)-1-1 教育内容・方法> ・学習や行事など集団で活動するとき、周囲の状況を見ながら自主的に活動できるようにする。 <(1)-2-2、3、4 情報保障><(1)-3-2 心理面>																					
③ 展開 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習内容・学習活動</th> <th>指導の手立て・評価 合理的配慮の観点から見た手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 黙想する。</td> <td>○あらかじめ多目的教室を直め、テレビ学習できる準備をしておく。授業を始める前に生徒の健康状態を把握し、授業を受ける場所を選択させる。黙想を行い、心を落ち着かせる。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2</td> </tr> <tr> <td>2 前回の授業を振り返る。 ・「狩猟図」多視点描法、歪曲遠近法 ・「最後の晩餐」一点透視図法</td> <td>○ICTを使い、視覚的に前回の復習ができるようにする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2</td> </tr> <tr> <td>3 本時の学習内容を確認</td> <td>○ホワイトボードに今回の授業の流れを書き、生徒が見通しを持って授業を受けられるようにする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3</td> </tr> </tbody> </table>	学習内容・学習活動	指導の手立て・評価 合理的配慮の観点から見た手立て	1 黙想する。	○あらかじめ多目的教室を直め、テレビ学習できる準備をしておく。授業を始める前に生徒の健康状態を把握し、授業を受ける場所を選択させる。黙想を行い、心を落ち着かせる。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2	2 前回の授業を振り返る。 ・「狩猟図」多視点描法、歪曲遠近法 ・「最後の晩餐」一点透視図法	○ICTを使い、視覚的に前回の復習ができるようにする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2	3 本時の学習内容を確認	○ホワイトボードに今回の授業の流れを書き、生徒が見通しを持って授業を受けられるようにする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3	③ 展開 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学習内容・学習活動</th> <th>指導の手立て・評価 合理的配慮の観点から見た手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4 ゴッホの「星月夜」を観賞し、何が描かれているか作者の思いを読み取り、発表する。</td> <td>○美術鑑賞プリントを作成し、重要なポイントは穴あき問題にする。プリントにアンダーラインを引かせ、復習するときに役立つ。通常サイズ(A4)のプリントで学習するが困難な生徒は、プリントを拡大する。自分が読み取った感情に、自信が持てるように声掛けをする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">作者の感情をどのように表現するか考えてみよう</div> </td> </tr> <tr> <td>5 ゴッホの「自画像」の背景を色鉛筆で塗る。</td> <td>○ゴッホの表情や背景に注目させ、自分が感じたままに塗るように声掛けをする。色鉛筆で塗りにくい生徒は、パステルを用意する。身体の状態で色塗りが困難な場合、支援者が生徒の指示通りに色塗りをする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2</td> </tr> <tr> <td>6 「自画像」をどのように塗ったか見せ合い、形や色からこのときの作者の感情を話し合う。</td> <td>○相手の立場や考え方を尊重し、目的に沿って話合いながら意見をまとめるように声掛けをする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3</td> </tr> <tr> <td>7 授業を振り返る。</td> <td>○読み取り方には人それぞれ違いがあることを教え、自分たちの感性に気付かせる。自分の気持ちを形や色で表現することができることを教える。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3</td> </tr> <tr> <td>8 自己評価をする。</td> <td>○今回の授業を4段階で自己評価できるようにする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3</td> </tr> </tbody> </table>	学習内容・学習活動	指導の手立て・評価 合理的配慮の観点から見た手立て	4 ゴッホの「星月夜」を観賞し、何が描かれているか作者の思いを読み取り、発表する。	○美術鑑賞プリントを作成し、重要なポイントは穴あき問題にする。プリントにアンダーラインを引かせ、復習するときに役立つ。通常サイズ(A4)のプリントで学習するが困難な生徒は、プリントを拡大する。自分が読み取った感情に、自信が持てるように声掛けをする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">作者の感情をどのように表現するか考えてみよう</div>	5 ゴッホの「自画像」の背景を色鉛筆で塗る。	○ゴッホの表情や背景に注目させ、自分が感じたままに塗るように声掛けをする。色鉛筆で塗りにくい生徒は、パステルを用意する。身体の状態で色塗りが困難な場合、支援者が生徒の指示通りに色塗りをする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2	6 「自画像」をどのように塗ったか見せ合い、形や色からこのときの作者の感情を話し合う。	○相手の立場や考え方を尊重し、目的に沿って話合いながら意見をまとめるように声掛けをする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3	7 授業を振り返る。	○読み取り方には人それぞれ違いがあることを教え、自分たちの感性に気付かせる。自分の気持ちを形や色で表現することができることを教える。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3	8 自己評価をする。	○今回の授業を4段階で自己評価できるようにする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3
学習内容・学習活動	指導の手立て・評価 合理的配慮の観点から見た手立て																				
1 黙想する。	○あらかじめ多目的教室を直め、テレビ学習できる準備をしておく。授業を始める前に生徒の健康状態を把握し、授業を受ける場所を選択させる。黙想を行い、心を落ち着かせる。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2																				
2 前回の授業を振り返る。 ・「狩猟図」多視点描法、歪曲遠近法 ・「最後の晩餐」一点透視図法	○ICTを使い、視覚的に前回の復習ができるようにする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2																				
3 本時の学習内容を確認	○ホワイトボードに今回の授業の流れを書き、生徒が見通しを持って授業を受けられるようにする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3																				
学習内容・学習活動	指導の手立て・評価 合理的配慮の観点から見た手立て																				
4 ゴッホの「星月夜」を観賞し、何が描かれているか作者の思いを読み取り、発表する。	○美術鑑賞プリントを作成し、重要なポイントは穴あき問題にする。プリントにアンダーラインを引かせ、復習するときに役立つ。通常サイズ(A4)のプリントで学習するが困難な生徒は、プリントを拡大する。自分が読み取った感情に、自信が持てるように声掛けをする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">作者の感情をどのように表現するか考えてみよう</div>																				
5 ゴッホの「自画像」の背景を色鉛筆で塗る。	○ゴッホの表情や背景に注目させ、自分が感じたままに塗るように声掛けをする。色鉛筆で塗りにくい生徒は、パステルを用意する。身体の状態で色塗りが困難な場合、支援者が生徒の指示通りに色塗りをする。 [1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2[1][1]-2																				
6 「自画像」をどのように塗ったか見せ合い、形や色からこのときの作者の感情を話し合う。	○相手の立場や考え方を尊重し、目的に沿って話合いながら意見をまとめるように声掛けをする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3																				
7 授業を振り返る。	○読み取り方には人それぞれ違いがあることを教え、自分たちの感性に気付かせる。自分の気持ちを形や色で表現することができることを教える。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3																				
8 自己評価をする。	○今回の授業を4段階で自己評価できるようにする。 [1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3[1][1]-3																				
④ 評価 ・美術作品から作者の心情や意図するに内容を読み取り、創造的な表現の工夫を、感じ取ることができたか。(鑑賞の能力) ・色彩効果を生かし、伝えたい内容を他者に伝える表現ができたか。(発想や構想の能力)																					
⑤ 準備物 ・授業用プリント3枚、自己評価プリント1枚、色鉛筆、パステル、テレビパソコン、テレビ会議システム																					

(資料7)

美術科授業プリント①


()



① 何が描かれているか考えてみよう。

この作品は () の晩年の作品である。ゴッホはオランダ出身の画家で1853年～1890年まで活動していた。ゴッホの作品には、自分の () が作品中に入れ込まれている。このような描き方を () という。

美術科授業プリント②



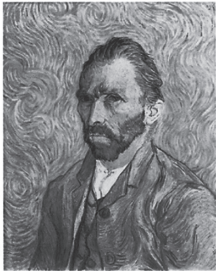
()

② この作品の背景を色鉛筆で塗ってみよう。

※自分が感じたままに塗ってみよう

③ そのように塗った理由。

美術科授業プリント③



④ みんなでゴッホのこの時の感情を話し合おう。

ゴッホのこの時の感情は () と思います。

理由は () です。

⑤ 今日のまとめ

作品で感情を表現するときは () と () に関係している。

美術科自己評価プリント

()

今日の授業を自分で評価しよう。

① 意欲、関心を持って授業に参加することができた。

・できた ・だいたいできた ・あまりできなかった ・できなかった

② 自分の思いをプリントに書く(塗る)ことができた。

・できた ・だいたいできた ・あまりできなかった ・できなかった

③ 相手の意見を尊重し、積極的に話し合いに参加することができたか。

・できた ・だいたいできた ・あまりできなかった ・できなかった

④-1 今日の授業を理解することができたか。

・できた ・だいたいできた ・あまりできなかった ・できなかった

④-2 できなかった、あまりできなかったを嫌んだ人は、どの点が難しかったか書こう。

⑤ 今日の授業の感想を自由に書こう。

(資料8)

学校における合理的配慮の観点(3観点11項目)

①教育内容・方法

①-1 教育内容

①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

①-1-2 学習内容の変更・調整

①-2 教育方法

①-2-1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮

①-2-2 学習機会や体験の確保

①-2-3 心理面・健康面の配慮

②支援体制

②-1 専門性のある指導体制の整備

②-2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮

②-3 災害時等の支援体制の整備

③施設・設備

③-1 校内環境のバリアフリー化

③-2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮

③-3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

7. まとめと今後の課題

特別支援学校学習指導要領解説によると美術科の意義は「ものの美しさを感じ取る感性を高め、自己のものの見方や感じ方に基づいて表現する力を伸長し、制作能力を高めて造形の喜びを味わう」と書かれている。これらを実際に、特別な支援を必要とする生徒にどのように学ばせるかを考えてきた。結果として生徒一人ひとりの個性や考え方を尊重し、多視点から実態把握をすることが最優先されると考える。具体的な美術指導としては、生徒一人ひとりが持つ感性を認めるとともに、違った見方や感じ方もあることを、その生徒に一番伝わる方法で教えていくことが重要である。様々な表現技法を学び、自分の思いに合った表現を選択させる。考える喜び、創る喜び、認めてもらう喜びを、1回の題材で味わえる授業を仕組むためには、多くの準備が必要である。しかし生徒に美術科の目標である「豊かな情操を育ませる」にはこれらの指導が有効だと考える。

本稿は総合支援学校高等部の美術授業を元に制作した。現在、特別な支援を必要とする幼児、児童、生徒は年々増加傾向にあり、その支援は、時代とともに新しい方法や用具が生みだされている。5障害の美術指導を考えていくことはもちろんだが、特別な支援を必要とする幼児や児童にも目を向け、その年齢ごとの実態に合わせた美術指導（図画工作指導）を考えていく必要があるのではないかと考えている。幼少期から実態把握を行い、支援を受けながら情操を育むことができるのであれば、その子の人間性は大きく関わってくると思われる。これらを検証するために、これからも特別な支援を必要とする生徒の美術指導を考え続けていきたい。

引用文献

- (1) 文部科学省：特別支援学校学習指導要領解説
文部科学省，平成21年3月，pp.455-459
- (2) 外務省：障害者の権利に関する条約
外務省，平成31年3月，pp.17
- (3) 文部科学省：インクルーシブ教育システム構築事業
文部科学省初等中等教育局，特別支援教育課，平成26年5月，pp.22